

第35回全農日本カーリング選手権大会

チームミーティング資料 (審判長事前通知)

北海道名寄市

サンピラーパークカーリングホール

2018年1月28日(日)～2月4日(日)



この文章は、大会の競技に関する事項をまとめたものであり、大会の開始に先立って、出場する各チームに大会事務局を通じて配布されます。

したがって、出場するチームの選手はもとよりコーチも、この文章を事前に読んで理解し大会当日に持参して下さい。本大会はJCA競技規則 2015.01 版及び 16.02 改正、16.10 改正および 17.10 改正を適用します。

なお、特に必要があると認めるときは、大会中に追加通知を行う場合がありますので留意願います。最終的な競技説明は平成30年1月28日(日)午後5時30分からサンピラーパークカーリングホールで開催されるチームミーティングで行う。

プレーヤー全てとコーチはチームミーティングに参加しなければならない、という **JCA 競技規則 C2 (h)**の項を確認のこと。審判長の承認なしに上記を怠った場合は当核チームの最初の試合でラストストーンの権利を放棄するものとする。

平成 30 年 1 月

大会審判長 小高 正嗣

カーリング精神

カーリングは技術と伝統のゲームです。技を尽くして決められるショットは見る喜びです。また、ゲームの神髄に通じるカーリングの古くからの伝統を見守るのはすばらしいことです。カーラーは勝つためにプレーしますが、決して相手を見くんだりしません。真のカーラーは相手の気を散らしたり、相手がベストを尽くそうとするのを決して妨げたりしません。不当に勝つのであればむしろ負けを選びます。

カーラーは、ゲームの規則を破ったり、その伝統を決して軽視したりしません。不注意にもこれが行われていると気がついた場合、その違反を真っ先に申し出ます。

カーリングの主な目的が、プレーヤーの技術の粋を競うことである一方、ゲームの精神は立派なスポーツマンシップ、思いやりの気持ち、そして尊敬すべき行為を求めています。

この精神は、アイスに乗っているいないに関わらず、ゲームの規則の解釈や適用に活かされるだけでなく、全ての参加者の振舞いにも活かされるべきものです。

1. 競技方式

第34回全農日本カーリング選手権大会は以下の競技方式によって行われる。今大会ではタイブレーク、ならびに3位決定戦は行わない。

- ① 予選(ラウンドロビン)
- ② プレーオフ(予選1位 vs 予選2位、予選3位 vs 予選4位)
- ③ 準決勝
- ④ 男子決勝戦
- ⑤ 女子決勝戦

2. ドーピング検査

- (1) 今大会ではドーピング検査が実施される可能性があります。
- (2) 18歳未満の選手は[ドーピング検査同意書]の提出が必要です。

3. アイスへのアクセス

競技エリア入場の際、あらゆる選手、コーチ、役員は着用の靴を清潔にしておくこと(屋外で使用したものは禁止)。

4. 大会競技規則

JCA 競技規則 2015 年1月版(水色表紙)と 16.02 改正、16.10 改正および 17.10 改正を適用します。

5. 順位決定方式

予選ラウンドロビンが終了した時点で、以下の条件(並んだ順に)によってチームのランク付けをする。【JCA 競技規則 C9(b)(i)(ii)(iii)(iv)】

6. 大会で使用されるストーン

大会で使用されるストーンは競技別拠点 NTC 所有のストーンである。

7. プレー中のユニフォーム

- (1) JCA 競技者ユニフォーム規定、JCA 競技規則 C3、ドレスコードを参照のこと。
- (2) 明るい色のハンドルのストーンを用いるとき、又は暗い色のハンドルを用いる場合は、それぞれハンドルの色に適応したシャツやジャケット・セーターを着用しなければならない。公式練習時に確認を行いますので、各回異なるユニフォームの着用を願います。
- (3) 試合や練習時においては、全てのメンバー(コーチ、補欠競技者含む)は JCA 競技者ユニフォーム規定に準じたユニフォームを着用しなければ、競技エリアに入ることを許されない(ジーンズは適切な服装と認められない)。

8. 予選ラウンドロビンでのラストストーンの扱い(1エンド目の後攻)

- (1) 試合前練習の終了後に LSD を行い、LSD の短いチームが 1 エンド目の先攻・後攻の選択権を持つ。同距離の場合は個々の数値で最短のチームが権利を有するが、それでも決められない場合はコイントスをして決定する。【2016 改正 C8(b)】

(2) ラストストーンドロウ(LSD) 【2016 改正 C8(b)(c)】

- ① 試合前練習後、ストーンを 2 投それぞれ異なる選手が時計回りと反時計回りで投球する(1 投目を時計回り、2 投目を反時計回りとする)。
- ② 各選手は最低投球回数(合計投球数ならびに時計・反時計回りそれぞれの投球数の最低要件)を満たさなければならない(本大会は3投 時計回り1投+反時計回り1投+1投)
- ③ 上記①、②を違反した場合、相当する LSD は 199.6cm と記録する。
- ④ DSC は予選で投球された LSD で、最も悪い記録 2 つを除いた平均である。【JCA 競技規則 C9(b)(iv)】

9. ラウンドロビン後のラストストーンの扱い 【JCA 競技規則 C8(e)(i)(ii)(iii)】

- (1) 勝敗の記録が勝るチームが 1 エンド目の先攻後攻もしくはストーンの色を選択する。
- (2) 1位と2位のゲームの勝者が決勝戦の1エンド目の先攻後攻もしくはストーンの色の選択権を有する。1位と2位のゲーム敗れたチームが準決勝の1エンド目の先攻後攻もしくはストーンの色の選択権を有する。

10. 試合前練習

- (1) 予選ラウンドロビンの試合開始前に、各チームは **7 分間**の練習が許可される。練習に関する指示は館内放送で行われる。最初の練習は**試合開始 30 分前**から赤色ストーンのチームが練習を行い、終了後黄色ストーンのチームの練習が開始される。それぞれのチームは練習終了後に直ちに LSD を行う。残りの時間はアイスの準備のために使われる。
- (2) 予選ラウンドロビン後の試合前練習は、ラストストーンの権利を持ったチーム(後攻)が先に練習を行う。各チームは **9 分間**の練習が許可される。最初の練習は**試合開始 25 分前**から開始される。LSD は行わない。同じく残りの時間はアイスの準備のために使われる。

11. 試合前練習の手順

全ての練習は審判により管理される、下記のような明確な指示を与える。練習開始またはストーンをチェックする前に、適切なアナウンスを待つこと。

- ・「練習開始 1 分前です。スライダーを冷やしてください。スライドの練習は行わないで下さい。」
- ・1分後「練習を開始して下さい。」
- ・6分後「練習終了1分前です。」(片付けを開始すること)
- ・7分後「練習終了時間です。」
- ・「時計回りで最初の LSD を行ってください。」(1 分以内で行う、計時する)
- ・最初の LSD の計測を行う。その間中断する。
- ・「反時計回りで2番目の LSD を行ってください」(1 分以内で行う、計時する)

- ・「後練習チームは、スライダーを冷やしてください。スライドの練習は行わないで下さい。」
- ・「練習を開始して下さい。」
- ・6分後「練習終了1分前です。」(片付けを開始するようこと)
- ・7分後「練習終了時間です。」
- ・「時計回りで最初の LSD を行ってしてください。」(1 分以内で行う、計時する)
- ・最初の LSD の計測を行う。その間中断する。

- ・「反時計回りで2番目の LSD を行ってください」(1 分以内で行う、計時する)

12. 試合スケジュール

- (1) 事前に JCA より各協会に、各協会より各チーム代表者へ配布されている。変更があればチームミーティングにおいて通知する。
- (2) タイムスケジュールに記載されている時間は試合開始時間です。

13. 試合

- (1) 予選ラウンドロビン及びプレーオフともに 10 エンドで行う。最終エンド終了時点で同点の場合は、サドンデスのエキストラエンドを行う。
- (2) 予選ラウンドロビン及び、タイブレークの試合では 6 エンド、プレーオフ以降の試合では 8 エンド終了する必要がある。

14. 計時

- (1) 予選・決勝の 10 エンドの試合では、各チーム 38 分のシンキングタイムが与えられる。
- (2) エキストラエンドが必要な場合は 4 分 30 秒のシンキングタイムが与えられる。
- (3) エンド間のデットタイムは 1 分以内とし、準備が出来次第競技を開始することを認める。エキストラエンドにおいても同様で 10 秒前の通告は行わない。
- (4) 予選・決勝では 5 エンド終了時点で 5 分間のブレイクが与えられる。チームは、コーチ・リザーブやチーム関係者に会うことが許される。終了 1 分前告知後は準備が出来次第競技を開始することを認める。時間経過後、自動的にタイマーは動き出します。(10 秒前の通告は行わない)
- (5) どちらかのチームが必要ないのに試合を遅らせていると審判が判断したときは、その審判は違反を冒しているチームのスキップにその旨を告げる。その告知の後、デリバリーするストーンが 45 秒経過してもデリバリーをする側のティーラインに到達していない場合、そのストーンを直ちにプレーからはずす。【JCA 競技規則 C6(m)】

15. チームタイムアウト

チームタイムアウトは、各試合について 60 秒を 1 回、エキストラエンドでは各エンド毎に 60 秒のチームタイムアウト 1 回取ることができます。(時計は止まります)

- ・アイスにいる選手だけがチームタイムアウトを要求できる。
- ・チームタイムアウトはアイスにいる選手により、チームの時計が動いている時にのみできる。
- ・選手は両手で「T」の文字を作って計時審判に向かって大きく明確に合図をする事。
- ・コーチの移動時間はホーム側、ボード側ともに 90 秒とします。移動時間とチームタイムアウトの合計時間は時計が止まりますが、時間経過後はシンキングタイムに切り替わります。(終了 10 秒前の通告は行います)
- ・本大会ではホーム側、ボード側の通路のみで選手との接触を認めますが、アイスに上がることは認められません。
- ・その他の事項については JCA 競技規則 C7 参照のこと。

16. テクニカルタイムアウト

チームはケガ、またはその他酌量すべき事情のある場合、テクニカルタイムアウトを要求できる。テクニカルタイムの手順は次のとおりである。

- ・アイスにいる選手だけがテクニカルタイムアウトを要求できる。
- ・選手がテクニカルタイムアウトを要求する理由がある場合、通常の「**X**」サインを審判と計時審判ベンチに示すこと。サインが示された時に時計は止まる。
- ・審判は理由を確認し、
 - a 有効の場合は、事由が発表され、問題が解決した後、時計が再開される。
 - b 無効の場合は、計時は直ちに再開される。

17. アイスへのダメージ

選手は用具、手、体でアイス表面にダメージを与えてはいけない。アイスへのダメージに関しては以下の方針で対処を行う。

- ① アイスを傷める可能性のある深刻な動作・行動が審判によって見掛けられた場合、または相手チームから判断を求められた場合、審判は計時を止め、確認を行う。
- ② 審判はその動作・行動が「偶然起こった」あるいは「避けることのできた」ものだったかどうかを決定する。
- ③ もしその動作・行動が避けることのできるものだった場合(例:ストーンを投球してから長い時間手やひざをアイスの上に置いた・スウィープの指示を出す際に、ハウス内の氷の上に手を置いた)、アイスメーカーの補助を得てダメージがあるかどうか判定する。
- ④ ダメージがなければ何も行わない。ダメージがあれば修復する。

手順【JCA 競技規則 R10(a)】

- (i) チームミーティングでの警告、手順の説明
- (ii) 1回目 = 最初の公式なオンアイスでの警告、アイスの修繕
- (iii) 2回目 = 2回目の公式なオンアイスでの警告、アイスの修繕
- (iv) 3回目 = アイスの修復、選手の試合からの退場

18. ラインナップカード

(1) オリジナルチームラインナップカード

当日の資料に同封されている。

チームミーティング終了時に審判長に提出しなければならない。

(2) 選手交代用ラインナップカード

オリジナルラインナップカードに記載されているメンバーに変更がある場合はその都度、試合開始35分前に提出しなければならない。又、試合前練習後や試合中にメンバーの変更が生じた場合も、この様式を審判長に提出しなければならない。提出後に交代する選手が競技エリアに入ることを許される。

(当日の資料に数枚同封されているのでその都度記入して提出すること。)

19. 計測

全ての計測は審判が行なう。エンドの終了時に計測の要求があった場合は、選手は関係しない全てのストーンを取り除き、ホッグラインかハックの後ろまで離れて審判のために場所を空けな

ればならない。計測の時にハウスを任されていた者は、計測に立ち会っても良いが、計測に影響を及ぼさず、計測を妨げない位置にいななければならない。審判は計測後ストーンを動かさずに、一番近いストーンを指示する。いずれかのチームは、再計測の要求をする権利を有する。【JCA 競技規則 R11(d)】

20. 選手の位置【JCA 競技規則 R4】

投球動作中は、投球していないチームの選手はサイドライン沿いのコーテシーライン間の位置で静止していなければならない。但し、次の投球を行う選手は、投球する側のハックの後ろでシートの上の位置に静止していても良い。投球していない側のチームのスキップ、バイススキップはプレー側のバックラインより後ろの位置に静止していても良いが、投球している側のチームのスキップ、バイススキップの立ち位置を妨害しないこと。

21. ホッグライン違反

ホッグライン違反を検知するため電子ハンドルを使用する。デリバリーの後でハンドルが赤く光った場合、デリバリー中のチームが直ちにストーンを取り除く責任があることに注意すること。

電子ハンドルストーンをデリバリーする場合、手袋状のものは使用しないこと。損傷を避けるため、ストーンを動かすとき、選手はハンドルを足またはブラシで触らないこと。ハンドルがアイスに接触するようにストーンをひっくり返してはならない。

ストーンデリバリー時にハンドルを起動させられなかった、または手袋状のものを身に付けていた際はホッグライン違反をしたとみなされ、ストーンは競技から取り除かれる。

下記の事項に留意すること

- ① 赤と緑のライトが交互に点滅する場合、ハンドルが適切に設置されていないと考えられる。選手はデリバリーする前にハンドルをリセットしなければならない。
- ② もし赤と緑のライトが続けて光る場合、バッテリー不足が考えられる。デリバリーする選手は X 字のサインを出し審判を呼ぶこと。選手はデリバリーの前にハンドルの交換をするか、デリバリーを続け、ホッグラインに向けてリリースしたか審判が目視するか、選択できる。
- ③ 点灯しない場合、誤配線が考えられる。デリバリー中の選手は X 字のサインを出し審判を呼ぶこと。選手はデリバリー前にハンドルの交換をするか、デリバリーを続け、ホッグラインに向けてリリースしたか審判が目視するか、選択できる。
- ④ ストーンがデリバリーエンドのホッグラインに到達する前に、赤いライトが点灯したと考えられる場合、スパーはストーンをシートの横に持っていき、できるだけ速やかにバックラインに行き X 字のサインを出し審判を呼ぶこと。審判はアイステクニシャンを呼びハンドルをテストする。もしアイステクニシャンがハンドルは正しく機能していると判断した場合、そのストーンはホッグライン違反と見なされる。もしハンドルの故障と判断された場合、選手は再度デリバリーを許可される。
- ⑤ 赤いライトが点滅しているいかなるストーンも、プレーする側のホッグラインを越える前に停止させるか、またはホッグライン違反扱いとされなければならない。

22. 得点

そのエンドの得点が合意されたら、ハウスを任されているプレーヤーは速やかに報告してください。(審判員が得点を入れます。)試合が終了した時点で、チームのスキップはスコアカードに

サインをし、その際その試合の得点合計等、記載されている事項に間違いがない確認してサインをする。

23. プレーオフ進出決定チームに対するミーティング

ラウンドロビンが終了した時点でプレーオフ進出チームはプレーオフミーティングに1人もしくは2人(選手と、またはコーチ)で参加しなければならない。そうでないと通常与えられる選択権を失う。

【JCA 競技規則 C2(h)】

時間、場所等は館内放送で案内されます。

24. コーチベンチ

コーチ席には3名まで座ることができます。補欠競技者、チームコーチ、もう1名のチーム関係者です(オリジナルラインナップカードに記載された人のみ)。会話でも違う形でも、コーチベンチにいる人物と氷上にいるチームが取るのは不適切とされる。また、コーチベンチの人物は同じエリアに着席している人物以外とはコミュニケーションをとってはいけない。違反がある場合には、審判長又は副審判長に競技エリアから退場させられることがある。

コーチベンチでマスコットやチームフラッグの掲示は禁じられており、常に“**クリーン**”状態であること。

応援や大声を上げることは禁止されている。

25. 選手に対するインタビュー

試合前練習の前の時間において、中継される試合に関係するチームの選手やコーチに対してのインタビューが行われる場合がありますのでご了承願います。又、試合後のインタビューは定められた場所で行われますのでご協力をお願い致します。

26. テレビ中継

全農日本カーリング選手権大会の試合が、大会期間中にNHKでテレビ放送される事になっています。試合中の選手とコーチ及びコーチ関係者各位のご理解、ご協力をお願い致します。中継に該当する試合では、選手の皆さんにピンマイクの装着をお願い致します。

※NHKの中継シートは、ブレイクタイムが1分以上(5エンド終了後除く)必要な場合もあります。審判の指示に従ってください。

27. クレスト

ユニフォームに着けるクレストについては「JCA 競技者ユニフォーム規定」に沿って事前に許可されたもの以外は認められない。

28. 静止画および動画撮影に関する同意

今大会における「静止画及び動画撮影並びに当該撮影画像の使用に関する同意書」を提出のこと。

29. 相応しくない振る舞い

不当な行為、ヤジや不快な言動、用具の乱用、あるいは選手、コーチ、大会関係者への意図的

な攻撃は禁止される。違反行為に対しては、退場処分を科せられる事がある。

30. 報道

カーリングを行うには報道機関の支援が必要である。従って、全ての選手、コーチ、チーム関係者は報道関係者の常識的な要求には協力することが求められるが、何か問題がある場合は、審判長、副審判長に伝えること。

31. 喫煙

競技施設内は禁煙です。決められた場所をお願いします。

32. 携帯電話

競技エリアに入る前に携帯電話の電源はオフにするかマナーモードにしてください。

33. 整理整頓

チーム及び個人の持ち物はすべて競技エリアの後方に整理整頓し、歩行エリアやスコアボード前には物を置かないこと。施設内は常に整理整頓をし、ゴミは全て各自で持ち帰ること。

34. 用具

チームが使用できるブラシヘッドは <http://www.worldcurling.org/brushes> からダウンロードできる“WCF Current Approved Product Codes”に記載されたものだけである。

- (a) 各選手は試合開始時に、使用する承認済みスウィーピング用具を指定し、試合中はその選手のみがその用具をスウィーピングに使用できる。違反した場合ストーンはプレーから取り除かれる 【2016.10 改正 C3(e)】。
- (b) 選手は、審判長が特別に許可した場合を除き試合中にブラシヘッドを換えることができない。許可なく取り換えた場合、チームは不戦敗となる 【2016.10 改正 C3(f)】。
- (c) 交替選手が試合に入る場合、入れ替わるプレーヤーが使っていたブラシヘッドを使用しなければならない。新たな用具が使われた場合、チームは不戦敗となる 【2016.10 改正 C3(g)】

35. 基準に則っていない用具を使用した場合の罰則 【2016.10 改正 C3(i)】

JCAによって規定された競技用具の基準に則っていない用具をJCAの大会で使用した場合の罰則は以下の通り。

- (i) 大会中最初の違反をしたチーム - 対象となる選手は大会失格処分となりチームは当該試合を不戦敗とする。
- (ii) 大会中二回目の違反をしたチーム - チームは大会失格処分となり選手全員が今後12ヶ月間にわたりJCAの大会への出場が認められない。

36. その他

- (1) JCA競技規則と審判長通知事項の解釈に違いが有る時は JCA 競技規則を優先します。
- (2) 審判長通知事項及び競技規則に記載されていない事柄が発生した場合は、その都度審判長が対応します。